

様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

提案者 芳賀町立芳賀北小学校 教諭

添谷 英司

1 はじめに

児童生徒の生命を守り、安心・安全の中で教育を行うことは、学校教育を成り立たせている最も基礎的な要件であり、何ものにも代え難いものである。

もし、このことが脅かされるような事態が起きた時には、学校現場は危機に陥り児童生徒や保護者・地域の信頼を失い、全ての教育活動が停止してしまう。そして、そのような信用失墜状態を回復するには、気の遠くなるような時間と労力を要することになる。

その意味からは、危機管理は学校運営における要諦であり、管理職のみならず全職員がそれに精通しておくことが正常な学校教育のためには必須の条件になっている。

そこで、昨今の教育状況を鑑みて学校危機管理について考えをまとめてみることにした。本報告の構成は、基本的には学校現場における危機管理の考え方や実践のポイントを具体的に記述することを心がけている。ぜひ、多くの皆様の目にふれていただき危機管理への意識を高めていただければ幸いである。

2 提案内容

(1) 学校における危機管理の捉え方

I 学校における危機

学校における危機を端的に言うならば、「児童・生徒・保護者・地域からの批判の発生と信頼感の喪失」である。→別紙資料参照

II 危機的状況における優先順位

学校において危機が起こった時に、最優先するのは「児童生徒」のことである。その軸をぶれさせないことが重要である。→別紙資料参照

III 危機的状況における組織・チーム対応

昨今の教育現場をみた時、担任1人では解決できない問題が多くなってきている。常に情報共有し、他に協力を仰ぎ協働しながら解決にあたるのが一般的である。→別紙資料参照

IV 危機の再発や直近の事例に学ぶこと

いじめが起きて、一応の解決を図ったとしても、再びその学校でいじめが発生したとなれば学校としては、致命的な危機となる。→別紙資料参照

(2) 危機管理についての基本的な認識

I 危機管理は「知識」よりも「意識を高く」もつこと

II 危機の連鎖

III 危機の前兆や予兆について

(3) いじめ・不登校を防止するために

I 教師の「気になる」という感覚が予防の最大の力

教師のアンテナを高くするには、日頃の児童生徒との関わりや観察を大切にできるかどうかにかかってくる。日頃よく見ていれば、いつもとは異なることに違和感を感じるはずである。「違いの分かる教員」になることが大切→別紙資料参照

II 理論や机上の議論ばかりでなく現場主義を貫く

頭でっかちになりすぎず、児童生徒の実態をよく見ながら問題点や課題を見極めていくことが大切である。→別紙資料参照

III 毎日の小さな積み重ねが予防の大きな力になる

大切なのは、「良い結果がでていいる」時や「良い状態である」時に、そのことをやり続けることである。→別紙資料参照

IV 先手必勝、即時対応で予防する

(4) 危機発生時の初期対応

I 最悪の事態を想定し、慎重に対応

II 二次災害は人災、危機の連鎖を生まないために→別紙資料参照

(5) 保護者対応について

I 保護者対応の基本について

II 危機発生時の保護者への対応→別紙資料参照

III 事実関係が合わない場合は、ポジションペーパーを準備して対応→別紙資料参照

IV クライシスコミュニケーションについて→別紙資料参照

(6) 危機を発生させないための組織・体制づくり

I 原因を追究し、再発防止

II 悪い情報や上手くいかなかった事こそ共有し、セオリー化する

III 風通しのよい職場、学校が危機を防ぐ

IV 業務を人に見られることが、程よい緊張感を生み、励みになる

3 成果と課題

(1) 成果

- ・いじめ、不登校の防止、危機発生時の初期対応、保護者対応については、現場の最前線で有効な手段になった。
- ・危機管理についてのセオリーや理想型を意識するだけで学校現場において安心、安全の風土ができる。
- ・まとめた理論が、現場の先生方の実践を裏づけたり、助けとなったりした。

(2) 課題

- ・危機対応は広範囲にわたるため、現場の先生方が全てのことを行うのは現実的に難しい。
- ・今後、危機管理について、若手の先生方への伝承方法について検討の余地がある。(時間と空間といった「二つの間」の減少)